N. 578, BASTOS, 10 de JUL. de 1957 O PROGRESSISTA REG. N. 4676 N. 2695 S. PAULO A.P

バストス週報

第三百七十八号
昭和廿二年七月十日
發行

DIRETOR KOITI MORI
REDATOR SHION ODA
RUA PRES. VARGAS, 188
C. P 112
BASTOS
C. P
ANUAL
CR. 100$—

バストス開植二十九周年を迎う

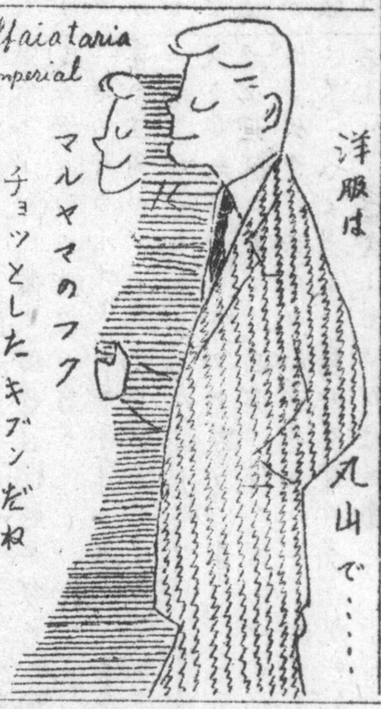
去る六月十八日はバストス開植二十九周年記念日であった。アニベルサーリオだから、その当日ムスタをするようにすれば判り易いのだが、バストスから聖市その他へ遊学する子弟が増加するにつれ功角年一度の祭典だから七月の冬休に入ってから彼らの帰省を待ってムスタをする方が、及って意義深いという風な考え方に自然かわって、七八年前から入植祭フエスタは七月中旬の日曜日を中心に行われるようになった。

実際にやって見ると六月より七月の方が都合がよいようである。六月だと農事の方も色々手放せない仕事があり、気候もやや不順で晴雨常なしといった向きがあり（今年は雨天僅か二日だったが）小学中学共に試験期で、小供を試験勉強させておいて大人共だけで騒ぐも愚かなこと、それに七月だと冬休に入っているのと農閑期という安堵感で、よそからの祭見物もおく〳〵押しかけてくれる、とまア色々その利点をあげる人も多い。

来年は早や三十周年というので今年は少しジミにやろうといったわけでもあるまいが、どっちかといえば、何かと控え目であったようだが、いざ入植祭が近づくと「何もそう、くよ〳〵することはないし」と芝居党もじっとしては居られず、婦人会も年に一度だからやりましょうよと新ふりつけの集団踊りをすることになり、その他の催し物は例年に劣らず華やかに盛をあげることになって、あい変らず賑あうだろうとの見透しである。

経済面から今年のバストスを見ると、カフエー地帯の豪勢さには比すべくもないが鶏卵、萬、その他雑作を健実にやっているので割合に豊かであると云える、ことに昨年は西瓜の大豊作へ加えて値段がよかったので、平均ではないが売上高そのものは現金としてだぶつき銀行預金が多分にふえたことなど悪い現象ではない。祭寄附をしぶる程のせ相でないことは御同慶であるが、懐工合がよくなると何かにつけて、サイフの紐もゆるみがちである。来年の三十周年祭にそなえて、しまって行こうとのかけ声こそ、今のバストス人の本べであろうと思う。（S）

Alfaiataria Imperial



洋服は丸山で……
マルヤマのフク
チョッとしたキブンだね

そなえあれば
うれいなし
「わかもと」あれば
びょうきなし
いつもけんこう
つねにゆかい

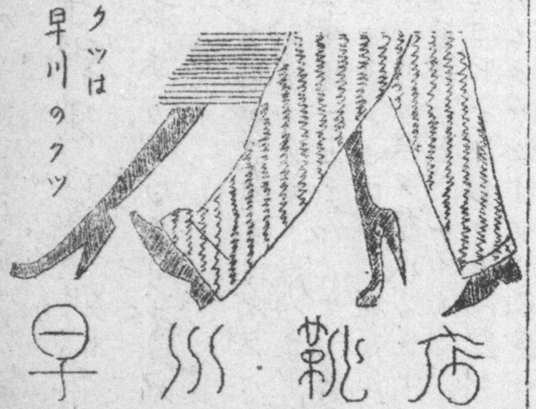
胃腸に
栄養に
産後に
「家に一瓶」
わかもと

日本の「わかもと」製造元
東京 わかもと製薬株式会社
伯國總代理店
聖市パウリスタ製薬会社
バストス
ニシカワ
ササキ
イタガキ
各薬局

Sapataria Bastos

まつり日のクツ
新しく
匂うごと
栄松

アナタのクツは
早川のクツ



早川靴店

七夕（たなばた）

日本には旧暦という厄介なものがのこっている。（公式には通用しないのだが、太陰（月）と農業の風習が古来何百年の間密接に、むすびついているのでたとえ法律で、その廃止をしてみたところで、効能はないのである。）が七月七日は「タナバタサマ」だといっても、新暦の七月七日、旧暦の七月七日（今年は八月二日に当る）地方によっては新の八月七日に行うところもあるという。すいぶんやっかいなことだ。

さて「タナバタ」の意味だが七夕とは夏と秋の交叉の祭で「タナ」とは階上に、つくり出したさしかけ作りで、この上で機織る（ハタオル）娘を棚機タナバツメ（織女）とよんだ、奈良朝時代に漢土の色巧奠が渡来して星祭と合流した。キヨウテンとは女子がハタオリなどの手芸に上達することを願って祭るものであった。七夕の頭鷲座のアルタイル、すなわち牽牛星、犬飼星、男星、男七夕）などと言われる星と琴座の三星ヴェガ、すなわち織女星、妻星、女星、機織姫、棚機姫女七夕）などとよばれる星が天の川をへだてて接近するので、年に一度の会う瀬にたとえて、いろいろの空想の伝説がつたえられるにいたった。牽牛ケンギウ織女ショクジョを二星という。たなばたが天の川にいて星合の夜にまつるものと信じるようになり、星迎とも言い、星の契、星の恋、星の妹背、星の別、星今宵、乞し妻などの言葉もできた。固有の棚機の女に、織女信仰を翻訳したものである。訪れてきた神の降る日が翌日で、この日みそぎを行うところもあり、古くから送り神に託して穢れを持ち去ってもらおうという考えを生じた。麻につけた人形を穢れ流すという考えから七夕流しなどといって川や海に流す風習が生れた。だが七夕行の風習は新しいことで、今でも行を立てない地方も多い。

歳事記を見ると七夕の伝説や風習がこまごまと書いてある。吾々が少年の頃、五色の短冊に、ウタともハイクとも判らぬものをかき竹の小枝に、にぎやかに結びつけて庭に立てた記憶がある、字が上手になるように芋の葉の露で墨をすることもきいていた。

ブラジルへ来てはや三十年一度もタナバタの行事など思い出したこともなかったのに、去る七月七日俳人山本秋扇氏の姪のアイ子さんがバイア人コンラード・ダシルバモレイラ君と華燭の典を挙げ披露宴で同じ俳友の本田猪人さんが「きょうは日本ではタナバタといって」と古い物語をもち出して今様ケン、ショクに結びつけたことかう。なるほどと猪人君の気転と博識に敬服したのだった。今様ケンギウ、ショクジョ両くんはその夕方の汽車で新婚の旅に出かけた。お客はパラベンスの酒に打興じていたが、猪人君は酒がのめないので、仲間の夢物語りにも陶酔できず、面白くない様相にしていたが、いつのまにか姿を消してしまった。

少年野球の老朝（ピンチ）を救おうではありませんか

バストス少年野球軍は去る七月六、七日コリリア市で開催された、汎パウリスタ予選（全伯出場権）に参加して、強敵マリリア軍を一〇×〇で破り、見事にオ十回全伯大会のパウリスタ線代表として出場する権利を獲得した。ムイト・ベン！

ところがここに一つ困った問題がある、というのは外ならぬケイザイ問題だ。手取り早くいうとサンパウロ遠征する金がないのだ。昨年の残金は今日までの練習とコリリア予選大会迄に使いつくし、サンパウロ遠征費は全く空白である。今までは、その都度、主にバストス市内の商社や有志の寄附で賄って来たが、諸物価の値上りで今迄位の金額では、いかに倹約しても足りないという。

少年野球自体で金の工面のできる相談はなく、勢い世話人の手で寄附にまつより外なく、毎年必ず全伯大会へ出場できるものときまって居れば、何とか財源の研究もお来たであろうが、予選通過後でなければ決定しかねる、痛し痒しの点の為め自然、従来の寄附行為に依存するしかなかったのである。他の地方、他の線の代表お場費も大方はバストスと同じく一般後援者の寄附によって賄っているようで、一、二の特志家の力にまつ処はないといってよいであろう。

バストスの世話人もこの点では非常になやんでいる様子である。しかも大会は（オ十回）は七月二十日に迫っている、そこで来年の事は他の方法を研究するとしても、今日、明日の問題では、やはり寄附にたよるより途はなさそうである。

予選に優勝したからといって大会で必ず勝つとは云へない、勝敗は只球神のみの知る処、全力をつくして闘う。この故に精神教育の真髄に通ずるのであって野球スポーツに依る体育は同時に徳育に相関々係をもつ所以である。

みんなのバストス少年軍である、少年軍が経済ピンチでサンパウロへ行けなかった、否やらなかったとしたら、これは大きな恥ではないかと思う。幸いに、この点を理解されて、自分の悴が出かけるんだと大きくポンと胸をたたいて、がまんして、いくらか、否なる可く多い方がよろしい、奮発していただき度い。

世話人から各巨へも巨長さんを通じお願いするそうです。何分よろしく。

私は、誰からもたのまれぬが事情をきいて黙しがたく、一筆ふで応援した次第。いやちょっとばかりは人並に出します（5生）

2º Campeonato dos Selecionados de Base-Ball de Bastos

第二回バストス野球大會

期日　七月十四日　午前八時
場所　バストス運動場

主催　バストス郡体育局
後援　バストス連日會
バストス聯合青年団

大会役員

総裁　市長　畑中忠雄
名誉会長　連日会長　谷口章
会長　郡体育局長　西田徹
副会長　聯青団長　戸田斉
總務　水馬孝昭　能見章男　崎田春一
記録部　浅原昌雄　丸山敦
整備係　田中拡　柳浦省三
〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃
其他　中央青年団

審判

部長　太郎田衛
部員　西村英一　渡辺孝　本田正雄　茂庭喜亮　河西静雄　竹内清　谷田部淳　板垣梯一　小野志

名手選抜選

北部

監督　渡辺(C)　助監督　茂庭(G2)　主將　草野(G2)

選手　弓削A　山芝A　岡田A　宮沢G2　茂庭G2　三次G1　河村G1　興水C　安斉A　河西A　小橋A　杉G2　水馬G2　鴫原G2　垣本C　萬谷C　古賀C　真野C　上山C

中部

監督　戸田　助監督　田中　竹内　主將　能見

選手　渡辺、島本、鴫原、浅野、橋本兄、橋本弟、前山、簑内、佐藤、松川、小野、宇都宮（以上中央）、小林、大倉、浜田、橋本、加藤、大多賀（以上シャーカラ）

南部

監督　板垣(川)　助監督　前田(F)　主將　竹内(F)

選手　北谷S　塩飽S　西村ち　中田ち　簑内U2　池田U2　横田U2　戸川U1　阿部B　杉恵B　池戸E　郷原E　西村F兄　西村弟F　白須兄F　白須F　谷口兄F　谷口弟F　池田兄U2

バストス入植二十九周年祭典行事

聯青担当部（前号よりつづき）

B 聯青バール

担当責任者　阿部五郎
総務　田中忠
　　島本昇
会計　橋本輝敏
　　柳浦省三
仕入部　三次益雄
　　前山義雄
厨房部（料理）　山口金丸
　　河戸亀次
　　池田ルイス
　　相川和義

イ 費店バラッカ工事の為め左記支部員半数出役
シャカラ・ウニオン2・アルト・プログレッソ
持参道具 各支部よりエンシャーダ一丁・カバデーラ一丁、各員マルテーロ

2 十三日、十四日の当番は左記の様に割当て各支部より男子三名女子五名午後四時半に現場に集合のこと。
十三日　アルト・ボンフィン・カスカッタ・シャカラ
エスペランサ、ウニオン1
十四日　中央・ファルツーラ・グロリア1 グロリア2
プログレッソ、サウデ、ウニオン2

3 各支部より竹串五百本 パンノ三枚用意のこと、準備当日持参

C 選抜野球の件

担当責任者　水馬彦昭
　　能見幸男
　　中央青年団

1 昨年の如く全バスタスを次の三部に分け各支部より選手二〇名を選抜す。

2 試合はリーグ法式 抽籤は当日朝カンポに於て行う。

3 三部の分割法
北部　アルト・グロリアー・グロリアII プログレッソ
　　カスカッタ
中部　シャーカラ セントロ
南部　ファルツーラ、サウデ・エスペランサ、ウニオン1
　　ウニオン2、ボンフィン

4 大会準備　十三日午后五時より 前記責任者之に当る

ジナジオ・サンジョセ生徒におしらせ！

七月十四日午前九時半までにファールダを着て学校に集って下さい。入植祭マルシャを行います
父兄の方は子供におったえ下さい。

サンジョセ中学校

支部対抗野球漫評

N老童党員観戦記

今昔談義

バストス聯青主催の野球支部対抗は今年で二十五回目だそうだ。今年の参加チームは十一。バストス全盛期には二十一チーム参加し、飛行場に假のグランドを作って、学校の運動場と二ヶ所に分けて三日間挙行し、役員もクタ〳〵に疲れた時代もあった。或は墓地腸の急設グラウンドを兼用したのが同年度であったかも知れぬが記録を調べなければわからない昔の物語りである。

第一回かの支部対抗で四十二×〇のスコーアで走り廻って勝った方がカンサードになって悲鳴をあげた、チンゲームがあった。これは私が主審をしたので記憶にのこっている。勝った方が中央で、まけた方はファルツーラであった。「お前さんたち、もうやめたらどうか」とも云えず、いつまでたっても負けた方が勇気リンリンであるばかりで三時間半程交通巡査みたいに立っていた。

初期の頃は日本で多少ボールをにぎったことのある野球マンの多いチームが優勢であったが、中期に入ってから少年野球上りのナショナル選手で補強したチームが断然光りだしてきた。戦后から現在に及べば九人揃うチームは中央だけで他のチームはヒゲの生えたのから半ズボンの少年まで動員しなければ人数がそろわぬようになった。練習のとき「お前打ったらファーストの方へ走るんだ、サードへ廻ったらあかんで」と第一頁からのコーチが必要でまことにお寒い話である。

年一回のヒノキブタイをふめるので、わざわざ作ったユニホームは大会がすんだらネマキに化けるかも知れぬ。ウニオンIIが二連勝したこともあったが、支部対抗の英雄は昔から、中央アルト、サウーデと相場がきまってしまって優勝戦はそれらの三強チームの顔合せになって、気の毒だが、その他のチームはネマキのチームになって全然歯が立たない。

処が昨年はスローリアIIが優勝し、今年は旋風をまき起してファルツーラが優勝した。正に番狂わせであり異変である。支部対抗の様相は従前とは変って年々優勝狭の行方がわからなくなった。そこによい所がある。あんなチームが優勝するんだから、来年はオレタチもユーショーできるかも知れぬと云う希望が湧く。機会は均等に与えられて、出場するたびにたゝかれた今までのインチリオリティー・コンプレックス（劣等感）がすっとんでしまう。

カボチャ談義

来年はウチのカボチャがあたるかも知れぬ思えば練習も一段と加熱され、ユニホームとネマキをまちがえなくなるだろう。しかしいくらカボチャでも手入れがわるいと（等賞にはなれぬ。今年はナゼ、うちのカボチャが（等賞をもらったか、その手入法を公開しよう

第一種子、選手の素質、足の早い粒をそろえること

第二整地

家長や女子青年が銃后の任務を果して物心両面の後援をする下地をこしらえること。

第三肥料

興味の温床で発芽した苗はよわいから生長と共に適当に施肥すること。練習の課程である。

第四販賣

收穫したカボチヤをどこへいくらでうるか。即ちチームの整備と用兵作戦である。このさいカボチヤの大さをそろえないと商品價値が落ちる。一人の英雄に依存するチームは戦力がマイナスになる。精神作用があるとの訳。

野球選手

カボチヤにたとえて、まことに失礼な話であるがもともと私は百姓なので、つい地金が出てしまい、申わけ次第もない。御勘弁願います。右は支部対抗に出場するカボチヤの栽培技術と販売方法であるが、この外に味方を勝利にみちびく為の多少の宣伝費と、税金の出費がかゝる。之れは参謀本部の機密であって、めったに口外できないものだが、毋事まける方にかけてはビールのたゞのみをされる被害者が多いので、人道すておけず、その高等戦術を、極密で伝授したいと思うので、御希望の方は〇月〇日夜八時××ビールにおでかけ下さい。白髪でメガネをかけ、新聞をよんでいるのが私です。ビールなら少々いただきます。

優勝するまで

ファルツーラ青年団は、はなやかな過去をもたない地味な村の青年子女の集団である。唯わづかに昔陸上で蜂高飛に優勝した個人記録があり、野球で打撃賞第一位二ヶ年あっただけである。団体賞としては野球で第四位に入ったカップが淋しく、ホコリをかぶってかざられてあったに過ぎぬ。此の村の子が眞紅の優勝旗を持って帰ったのだから我が村は神武以来の感激と興奮に酔ったのもムリはない。

エンシャーダ引く手にも力も入るし、蚕は四キロ五キロはわけはない、卵もがんばりや一日に二つくらい産むかも知れぬ。という程わが村は景氣にあふれている。

自称自讃を恐れ入るが優勝の原因を探って見よう。数年来選手の異動のないこと、自信なくて出場した陸上の支部対抗で第三位に入って、がゼン気をよくしたこと、事実足の早い選手が多い。新来の移住者の加入が村の明朗化を助けたこと、監督から選手一丸となってチームワークの良かったこと、応援のエンゴ射撃が奏効したこと、他チームより練習の回数が多かったこと、これらの要因の外、陸上で足の自信を得たことチームにもバックにも異分子が混入していないのが精神的に最大の効果をあげたものと思う。

事実わがファルツーラが今年の大会で優勝するまでは次の通であった。第一次戦では前年度の覇者グロリアⅡが大手をひろげて立ちふさがり、此のナンカンをのりこえても次には貫録の重いアルトが岩の如くに立ちふさがっている。こゝで決勝には中央かサウーデかシャーカラの三つの中の一つと雌雄を争うことになる。之れが大会一週間前に行われた主将会議の抽籤結果の予想であって、ファルツーラ側としては、いづれも相手にとって不足はない。それぱかりか、その組合せの発表を見て、これはアカンと（タ〳〵）と腰をぬかした弱卒も居たので、叱りとばしたことがあった。

「お前ら、全力をつくせばよい、相手をカボチヤと思え」と訓示を与え、Z信号旗をかかげたものの、「司令官の我輩も内心ビクビクもので、エエトコやってくれよ。ひょっとしたら或は？」てな気持しかなかったのである。オーて第三者は大会の試合組合せ表を見て、戦前の予想では、アルトが中央が本命でファルツーラをダークホース位に見立てるパルピット、は野球通でも目の肥えた方であった。試合は三試合とも幸運に恵まれたこともあったが選手各自が終始ベストをつくし最後に逆転勝ちをする程ねばった敢斗精神は賞讃に値すると思う。

戦後感想

陸上も野球も年々技術面でも、精神面でも低下しつゝあるの

次頁へ

大野家慶事

大野清一郎氏ご令嬢の御令嬢は本年で結婚五十年に当るので息子さんの、英雄、正一、木口正功三氏が発起で金婚式をもようすることになった。恰ど今冬休みで孫や遠方のシンセキなども来ていたからと、来る七月十四日午后一時、ウニオンの本堂でシュウ式を催し、二百名以上のお客さんの由、さぞにぎわうことであろう。

なお、清一郎翁は七十七才で故の字祝（還寿）を兼ねるので大はりきり、とても七十才以上の老人とは思えない元気さで、四十以上のムスコどもを叱りとばし（マサカ）鯉を泳ぎならつかまえる程だというから大したものである。功に百歳の長寿をおいのりする次第である。

Mudas Diversas

Quitanda Shinozaki

バール古田さんの向い

篠崎

しの ざき

くだものとやさい

安くうる店

新しいお野菜をお安く

さし上げます

苗木（ムーダ）るいいろ〳〵あります

こんな大きなポンカンが、さっと

なりますよ

ではないかと思われる。たゞ単に年中行事として義理に大会が行われているように見える、文化でも産業でもスポーツでも向上するように努力するのが青年団の任務ではないか。スポーツの記録が低下する原因は、情熱を失ったため練習不足となり、指導の立場にあるベテラーノが新人を親切にコーチしないのが、最大の欠陥ではないかと思うし、家長が若年に時間と経済の援助を、おしむのもわるい傾向ではないかと思う。

別の面から観察すれば戦時中の空白期間に成長期にあった子女が今日の姿となって我々の眼前に見るとするなら、その罪は青年になくて、むしろ我々家長の方にあるかも知れぬ、しかし青年団が修養団体であるなら、自ら運命を開拓するよう努力すべきであろう。グラウンドでは英雄であって、銃ーいし、家では学者のように本をよみ、畑では農業技師のように上手に作物を育ててほしい。体育にそそぐ意欲と情熱が徳育、智育にも同時に応用するようにしなければ完全な教育にはならない。野球の練習には時間通り参加しないが、シネマには三十分前に町へ着いたりするんでは、どうかと思う。

オールバストス野球チームは毎年支部対抗がすんでから選手を銓衡して、チームを編成する習慣になっているが、私は毎年大望をくりかえすだけである。大会で外面にあらわれたプレーだけで選手を銓衡するのは期待外れが多い。もっとグランドマナーやインサイドワークで味方チームに貢献した、しっかりした選手を物色したらどうだ。足の早さや肩の強さ位試験できる筈である。その上性格を吟味することは大事である。我ままな選手を採用したためにチーム全体の損失になることもある。

オールバストス野球チームが聯青の今下にあるものなら、戸田団長の奮起をうながすため、苦言を呈する次第である。大衆の支持をうるためには選手採用の枠をひろげて、新人を発掘し、それをもっと鍛え上げる必要がある。野球理論を注入して、我流でかたまった老耄を除外し、サッパリしたチームに改造する時期を逸した感があるが、しかし今からでもおそくはない。

今年の全伯大会はツパンで開催されるとき、パウリスタ線の予選もツパンでひらかれる。その予選を突破するため早急に練習を開始されたい。私は戸田団長を信頼する。彼の念願には全伯制覇の構想が玄米ーでいるにちがいない。ツパンは近い。私も勇んで応援にくり出すバストス大衆の一人である。（終り）

移民墓地大望抱いた儘で埋め　塩飽杜柳

バストス墓地には一度は錦衣帰郷と一獲千金の夢もむなしく土になった人も多いことでしょう。

痩土に移民のでっかい足の跡　杜柳

移民苦斗史、最後までガンバリ通す人が最後の勝利者

鶏が故郷の朝を鳴いて見せ　杜柳

密と乳の流れる カナンの地 バストス ボラレー

バストス劇団大狂言

来る七月十三日十四日入植祭余興として大方の皆様より御期待を以て御迎をいただきます狂言は

男涙の三度笠　金盃の行方（ゆくえ）　三幕

の侠客もの、配役は次の役者衆にございます

不時鳥（ホトトギス）の義弟　新吉　坂本真吾太夫
仙太　青竜斉人（新人）
妻　お勝　青山ひとし（新人）
駒沢大五郎　石橋三雄之丞
チョイキナの為　大高治夫（新人）
ヤラズの吉　浜田章義（新人）
太鼓持
茶屋の親父　貝田凡治之介
千鶴屋徳右ェ門
娘　お静　友谷エレナ嬢
御家老　緒方時夫（新人）

新人がごらんの通りバスタンテにございますれど、いづれも、日本仕込のチャキ〳〵で中々の芸達者いかなる、うでまえをごらんに入れまするやう、幕があきましたら「ナリコマ屋」「ハリマ屋ァ」とごせいえん願いたてまつります。

まった切り狂言といたしましてはお笑い一幕

現代喜劇　かけとり罷（まか）り通る

これまた当劇団トクイ中の十八番、最後までお見落しなきよう、とざい　とうざーい。

金盃行方　あらすじ

第一幕　花見茶屋の場　千鶴屋の娘お静、悪漢駒沢大五郎の仔分為にいぢめられる処を新吉の弟仙太に助けられる。

第二幕　新吉住家の場、悪漢大五郎仕返しにやってくる。新吉は大五郎に大枚百両かりているため、さんざん、文句をいわれ、大五郎は新吉の家探ーをーして松尽ぞという金盃を、百両のカタにとってーまう。この金盃は、トノサマの預り物で新吉危地に陥る。要お勝は、わざと新吉にあいそづかしをいい、身売りをして百両と手紙をとどける

第三幕　千鶴屋の場

一軍流派のうち新吉は千鶴屋へ身売りをーしている妻お勝にあいにくる。千鶴屋徳右ェ門は十手をあづかる身なれど、かつて娘お静が難儀を助けられた恩がえしとて、新吉とお勝にあわせこやる。お勝の話によると、大川大五郎と名のる浪人物が金の盃ともっているというわさ、きっとコマザワの大五郎にちがいないと、うかがっているとも知らず、その大五郎があらわれ、ヤーヤーと大立廻りキャリン〳〵と チャンバラよろしく大五郎の奴とう〳〵殺されてーまう。

ゆに天網カイカイ、ソニシテモラサズ悪人七たび善人笑ゆる、ホンニ此れ正義劇の見本で、ござり斉る　チョン〳〵。

「處女懐胎」 2

道庵

前号より つづく

そのもとは、やはりこのヘレンスパウエー女史の論文によるのであるが、はたして人間に処女懐胎ありやというわけで学者たちがしらべてやろうと「自分たちがそうだと思う希望者」を募集した所、十九組の母娘があつまった。この人々をくわしく生物学的、血液学的、遺伝学的に調べてみたのである。そして全く問題を理解せずに集った十一組は始めから除外された。それは性交で処女膜が破れれば処女懐胎だと思う林を無知な人達であったのである。

のこりの八組について母と子どものA、B、O血液型 RH血液型を検査した。そして四組は娘が母親のもっていない遺伝因子をもっていたので、これも落第し、残った四組について更にM、N、S、Luなど七種類の血液型を調べ母親にない因子をもつ二組が除かれた。あとにのこった二組の内の一組はお母さんが青眼で子供が茶目でカンタンに除かれ、最後のこったのが SNRA、M、MARIE JONSAN 母娘でこの人達すべての生物学的、血液学的、遺伝学的の検査に合格したった一つ皮膚の移植が成功しなかったのみであった。

しかし皮フの移植と云うことも仲々技術的にむつかしいことであって、手術が理想通りに行かぬこともあるからこのこと一つで否定もできず、問題は提出されたが結論なく宙ブラリンであしまいになった訳のである。

そこで処女懐胎のおこる理由をしらべてみると

一 母の体細胞が発芽する場合で、この時は生れた子供のもっている遺伝因子は全く母と同じでなければならぬ。

二 自然授精の場合、このときは一人の女が完全に働く男女両性の生殖器をもっていなければならない。卵子は精子を卵巣に卵を産出せねばならぬ。そして産れは陰ノウ中に入り空気中に悪臭し、神経は腹中にあって三十七度の温度と湿気に保ごされていなければならぬ。そして問題はいかにして授精するかである。

三 今(一つは双子 GEMMA)の片われが娘であるというのである つまり一卵性の双子であって一方が原胚のまま(一細胞のまま)他方の双子の体内、幸にも子宮の粘膜下組織中に埋没していて丁度このひとりが春期発動期に到り、強慰性ホルモンの影響を受けこの埋没細胞が発育し始めたとも考えられる。これは春機発動期前に於て婦人の卵巣性の種々な要性腫瘍ことに畸形キストの発生を為、或は眼の中から、或は外の組織中から頭髪や歯や骨格のある塊のとり出されることでもわかろう。

ともあれジョンソン夫人の例はこのどれでもなかったというのだから全く三面記事的騒動でなかったのではなかろうか。

人曰く、彼女はこの検査によりどんなことが結果するかも知らず、一九四四年ある連合軍のドイツ大爆撃の下で、フト身体に異状を感じ、それが姙娠となって行ったのであって絶体にこれの原因であって、性交はなかったと断言し、周囲の人もそれを是認するというのである。

轉居御挨拶

今般私共一家轉業の為め不図(はからず)も聖市へ移転致す事と相成りました。

顧れば入植以来廿六年の長き歳月の間バストス在住の皆様方の御親交と御支援に依り恙無く過して過して参りましたが何等御報恩も出来ず、恩恵の地であり墳墓の地と念じて居りましたが子息等の事業の為め遂に転居を決意するに到りました。御地を去りに臨んで感慨無量、懐旧の念胸に迫るものがあります。

何卒皆々様には、いつまでも御健康にて益々御発展なさいます様心からお祈り申上げますと共に尚又御出聖の際には是非御立寄り下さいまして旧交を温めて戴き度く略儀乍ら週報紙を通じてお別れの辞とさして頂きます。

一九五七年七月六日出発に際し

サウデ区 松原秀樹

家族一同

移転先 聖市 ラッパ区モンテイロ デメーロ街二九七

バストス在住各位

松原秀樹氏転居

松原氏はサウデ区の重鎮、よく自治会共につくした人で為るが今回、次男のアキラさん経営の聖市の店に迎えられることになった、長男はマットグロッソの方に居られるので、同じくらすなら サンパウロということになったらしい。アキラ氏は数年前出張し、モトールの修理を習得してから、ラッパ区にオフィシナを開設しているが、技術が上手なのと、人当りがよいので但人間にすこぶる好評、仕事が多すぎて悲鳴をあげている程である。

店名は アウト エレードリッコ サンジョセ

アキラ マツバラ イルモン商会

販売機、各種モトール、新品及ペッサ類一式

アコムラドーラ各種、自動車各種タイヤ、チューブ一式

しかし本検査は全く生物遺伝学的のものであり、精神病学的も、社会学的も、又医学的の検査も一切これに参与していないのであって、ただそれだけでこの大きな問題を論じ、門を閉じたのはそこに何かメがあり、全くの人選がせなりと結論する外はない。すくなくとも精神病学的検査、ピシコアナリゼ及本人の少女時代及結婚后の性生活の調査位あればよかったと思う。（Y）

（同仁医事ニュース　五月号より）

Nossa Relojoaria

AV. TAMOIOS 785, TUPÃ

信用第一を誇るツパン市の

ノッサ

時計店

時店
ユビワ
カネッタ

修理迅速確実

Etiqueta e Boas Maneiras

エチケッタはうつりかわる

三十年位まえまでは、サンパウロでも女のボアス・マネイラスは中々やかましかった。

1 よいファミリアでは、娘はもちろん、母おやでも、ひとりで町へ買物にでるものではない。

2 ダンサの時、ノイヴァ以外の人と、二どつづけておどってはいけない。

3 女が足ぞくんで、こしかけるものではない。若い男の人とパツセイオなどでかけるのはアバズレムスメである

4 大ごえで話したり、笑ったりするものではない。流行歌（モジンニア）をうたうものではない。

5 イスのせなかによりかかってすわるのはギョウギがわるい

6 俗語（ジリーア）をつかってはいけない。

7 人の前でボルサからカガミを出して見たり、おしろいをぬったりするのは、ブサホウである。

× × ×

今のムスメさんはどうでしょう。カフェーの立のみ、娘二三人でシネマ見物、タバコはすうし、アグラはかくし、ノド自マンには一トウになるし、はてまたシビリ歩ツソンは、ニンゲンを だいなしにすると、日本イミンだけでなし、としよりの伯人もついなげいているという。

入植祭　　新津牛丸

行入れし若思へばバストスも
オンサ　アンメのすみかなりーが

慰霊祭

み霊をば慰め給ふ読経の
声かしこくも面かがらめやは

敬老会

老いたるを敬ふ心神なれや
親孝行の鏡とそなる

聖市で仂く学生を求む

サンパウロでセンチフィッコ又は大学へ行っている学生さん！はたらき乍ら通学する学生さん、数名募集します。

父兄の方でこの求人広告を見られたら、ご本人に話して見て下さい。なかくわしいことは……

聖市ルア・アメリコ・ブラジリエンセ　四一九

甫伯中央産業組合

庶務課　百武氏を御たづね下さい

南銀バストス支店

新築愈々はじまる

昨年六月頃旧持主草葺から買取ったバストスの目抜きの場所ポントデロードヴァリオ前角の屋敷が南銀さんの支店になるのだ相なと、バストスっ子は首を長くして、あのエスキーナに三階建て位の（?）すばらしい銀行の建つのを想像し乍らまっていたものだった。古い校家がとりこわされ、つづいて起重機の音高らかにと思っていたらそれっきり年がくれてしまった。処が銀行内部ではああでもない、こうでもないと、設計図や予算書をひっくりかえし、うらがえし、している内、つい時をすごしたもの、いよ〳〵着工開始ときまったのが去る六月、現場で基礎工事が始まったのが七月一日、

小塩支店長さんの話だと九月下旬には竣工する予定だそうで、一〇M×一二Mの銀行と、八、五M×一〇Mの住宅が瀟洒な姿を、あらわすのも、近いうちである。この建築の設計者はツパン市のアメリコ・カルメバーリヨ技師でジョアキン・ゴルゾーニ頭梁が現場監督の由、「どの位建築費がかかるんでしょうって？」そんなこと、ききたがるものではないよ。

エスペランサのご紹介

エスペランサは二世のよみものです。日本語は、こんなにやさしく、だれにでも、わかるようにかけるのです

エスペランサで　ニッポン語の新しいかきかたをべんきょうして下さい。

日本語ができないといけません。決してむつかしくないですよ。

週報社に見本（アモストラ）がありますから、ごらん下さい

(nº 36) Continuação FAMILIA - Hector Malot-

Garofoli levantou a mão, Ricardo ficou de chicote suspenso.

Julguei que ele ia perdoar; mas não era de perdão que se tratava.

- Sabes quanto os gritos me afligem, disse Garofoli devagarinho, dirigindo-se a sua vitima, sabes que se o chicotes corta a pele, os teus gritos cortam-me o cora ão; previno-te pois que por cada grito terás uma chicotada a mais e a culpa será tua; não queiras que eu adoeça de desgosto; se me tivesses alguma amisade, algum reconhecimento, calar-te ias. Vamos Ricardo!

Este levantou o braço e as correias açoitaram as costas do desgraçado.- Mamã! mamã! gritou este.

Felizmente não vi mais nada, a porta da escada abriu-se e Vitalis entrou. Uma vista de olhos fez-lhe compreender o que os gritos que ouvira, enquanto subia a escada, lhe tinham já denunciado; correu para Ricardo e tirou-lhe o chicote da mão. Depois voltando-se bruscamente para Garofoli, po-se diante dele, de braços cruzados. Tudo isso se passara com tanta rapidez que Garofoli ficou um momento estupefado, mas logo tranquilizando-se e retomando o seu sorriso dengoso:

- Pois não acha que é terrivel, disse ele; esta criança não tem co ra ão. - É uma vergonha! exclamou Vitalis.

- É justamente o que eu digo, interrompeu Garofoli.

Nada de dissimulaçoẽs, continuou meu amo com energia: sabe perfeitamente que não é com esta criança que estou falando, mas consigo; sim é uma vergonha, uma infamia martirizar assim crianças que se não podem defender.

- Em que se mete voce, velho tonto? disse Garofoli mudando de tom.

- No que diz respeito á policia.

- A policia, exclamou Garofoli, levantando-se, voce ameaçar-me com a policia, voce?

- Sim, eu, respondeu meu amo, sem se deixar intimidar pela furia do "Padrone".

- Ora ouça, Vitalis, disse este acalmando-se e tomando um tom escarnecedor, não deve fazr-se tão serio e ameaçar-me de falar, porque eu pelo meu lado, tambem poderia perfeitamente falar. E então quem e que não ficaria contente? Não iria de certo dizer nada á policia, os seus negocios não lhe dizem respeito. Mas ha outras pessoas a que eles interessam, e se eu fosse repetir a esses o que sei, bastava que dissesse um nome, um unico nome; quem é que se devia obrigado a ir esconder a sua vergonha?

Meu amo ficou um momento sem responder.

A sua vergonha? Eu estava espantado. Antes de eu ter voltado a mim do pasmo que me tinham causado aquelas estranhas palavras, tinha-me ele pegado a mão. - Vem comigo.

E conduziu-me para aporta

- Então! disse Garofoli, rindo sem rancor; meu velho, queria-me falar? - Já não tenho nada a dizer-lhe.

E sem uma unica palavra, sem se voltar, deceu a escada levando-me sempre pela mão. Com que alivio eu o seguia! escapava pois de Garofoli; se me tivesse atrevido teria beijado Vitalis.

Enquanto estivemos na rua onde havia gente, Vitalis foi andando sem dizer nada, mas cedo nos metemos por um beco deserto; sentou-se então num frade de pedra e passou umas poucas de veses a mão pela testa, o que nele, era um sinal de irresolução.

- Será muito bonito dar ouvidos á generosidade, disse ele, como se estivesse falando consigo mesmo, mas com isso aqui estamos nós no meio de Paris, sem um vintem na algibeira e sem um bocado de pão no estomago. Tens fome?

- Não comi mais nada senão o cantinho de pão que me deu esta manhã

- Pois olha, meu pobre filho, estás exposto a deitar-te esta noite sem ceia; ainda se soubessemos onde haviamos de ficar.

-Pois ainda não resolveu nada a esse respeito?

- Contava que tu lá ficasses, e como ele me teria dado uns vinte francos pelo teu inverno, por agora estava livre de embargos. Mas depois de ver como ele trata as crianças não tive mão em mim. Não tinhas vontade de ficar com ele, pois não?

- Oh! como é bom.

- Talvez o coração do rapaz não tinha morrido de todo no velho vagabundo. Infelizmente o vagabundo calculara bem, e o rapaz transtounou tudo. Agora onde haveremos de ir?

Era já tarde, e o frio que abrandara durante o dia, voltara outra vez aspero e glacial; o vento soprava do norte, iamos ter uma noite má.

Continua.-

O Promotor e sua irmã mais nova

検事とその妹（けんじ と いも）

法庭に泣きくずれる悲劇の花！
愛と涙で綴る感動の哀詩
美しき肉身愛を描いて切々胸うつ珠玉の名作
原作 竹田敏彦 會心の名作 映画化成る
監督 古賀聖人

エレンコ

検事夫野 健作 丹波哲郎
その妹明子 日比野恵子
法廷に立つ女 秋本静江 筑紫あけみ
その弟亮一 北原 隆
糸蔓エ芝野貞雄 中村 彰
その弟秀雄 天知 茂
被告者 前田民蔵 高村洋三

撮影 山中 晋

いかに美しい姉弟愛でも国法を破って個人の幸福はかちとることはできません。その人はたくまないでも犯した罪に対しては一点の私情をもさしはさむことは許されません
大法は常に厳然として存在しています」と論告する検事の目に涙が光り頬をつたわってながれた。

Cine Bandeirantes
"Não Zombe da Lei"

七月十一日（木曜日）夜八時
花の講道館 一回
菅原謙二・若尾文子・山本富士子・

七月十二日（金曜日）夜八時 検事とその妹

七月十三日（土曜日） 午后二時 〃 六時 〃 八時 三回 検事とその妹

七月十四日（日曜日） 午后二時 外国映画
〃 四時 検事とその妹
〃 八時 アメリカ映画
〃 九時半 検事とその妹